

令和6年度第2回油津歴史文化遺産活用事業推進会議

令和7年2月19日

未来創生課作成

会議録（要点記録）

開 催 場 所	日南市役所 付属棟 飫肥杉TOP館		
会 議 日 時	令和7年2月19日（水）	時 間	13:30～15:15
会 議 出 席 者	【委員】 益田委員、細田委員、落合委員、坂元委員、山口委員、楠委員、長友委員、宮口委員、鬼束委員 【油津の歴史文化遺産を活用したまちづくりコーディネーター】 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 （コーディネーター）大野博堂氏 （サポーター）坂田知子 【事務局】 高橋市長 （未来創生課）古澤課長、渡辺課長補佐、山倉副主幹、汐口主任主事 （観光・クルーズ振興課）谷口課長 （生涯学習課）重永課長、平原係長		
会 議 の 次 第	1 開 会 2 市長あいさつ 3 議事 （1）令和6年度の事業進捗について ① 全体概要 ② コーディネーター業務 ③ 歴史資料館整備 ④ 花峯橋整備 ⑤ 水辺利活用事業 ⑥ 市民団体活動支援事業 （2）今後のスケジュールについて 4 コーディネーターとの意見交換 5 そ の 他 6 閉 会		
【 内 容 】			
1 開会（13時30分） ・本会議の会議録（要点記録）の市のホームページへの掲載について説明。			
2 市長あいさつ			
＜次ページへ続く（1／4）＞			

3 議事（議長（委員長 益田委員）進行）

（１）令和６年度の事業進捗について（報告） ※①～⑥まで一括説明後、質疑対応。

① 全体概要

- ・資料１に沿って進捗状況を説明。

② コーディネーター業務

- ・コーディネーターより自己紹介

（油津まちづくり事業推進に当たっての懸念点として「資材価格高騰」や「労務コストの増」が及ぼす影響や他地域で起こった事例の紹介、R6.8.8の地震が及ぼした歴史資料館整備への影響等を説明。）

- ・資料２・３に沿って、「子育て世帯及び中学生向けアンケート結果概要」の説明。

③ 歴史資料館整備

- ・資料４に沿って進捗状況を説明

④ 花峯橋整備

- ・資料１の（４）を説明。

⑤ 水辺利活用事業

- ・資料１の（５）を説明。

⑥ 市民団体活動支援事業

- ・資料５に沿って、R７年度から実施予定の事業概要案を説明

【主な意見】

（委員）資材高騰などの話があったが、今後、まちづくり計画を進める中で、計画に示した５か年の事業費１５億円を上回るようになった場合はどうするのか。

⇒（事務局）１５億円の範囲で事業をやりくりすることを目指した作業を進めるが、避けられない部分もあると思われるため、新たな制度事業の活用など、コーディネーターにアドバイスをもらいながら、「まちづくり計画」事業をしっかりと行うことを念頭に、進めていきたい。

（２）今後のスケジュールについて

- ・資料６に沿って説明。
- ・まちづくり計画に基づき、概ね予定どおり進んでいる。
- ・歴史資料館整備、花峯橋の復原は、地震の影響等もあり設計業務及び解体工事が繰越となったため、全体的にスケジュールが後ろ倒しになる可能性が高い。

【主な意見】

(委員) この事業が、油津地区だけではなく、日南市全体の市民から理解を得られるよう、市民活動支援事業が対象としている、まちづくりイベントや市民フォーラムはしっかり実施してもらいたい。市民活動支援事業への応募がなかった場合、どのような対策を講じるのか。

⇒ (事務局) 市としてしっかり推進していくか、応募がなかった場合は、推進会議等で皆さまと協議を行い、実行委員会を設置するなど、事業の推進を図っていききたい。

(委員) 市民活動支援事業が対象としているイベントは、油津地区に限定したイベントだけか。

⇒ (事務局) 油津地区だけに限定したものではなく、油津地区と他地域をつなげるイベントも対象としたいと考えている。

(委員) 市民活動支援事業について、事業構想から実施まで、単年度で完結する必要があるか。例えば、初年度に事業構想を立て、2年目に実施ということは可能か。

⇒ (事務局) 国の交付金を活用する以上、イベント自体は単年度で完結していただく必要がある。いろいろな申請パターンが想定されるため、しっかりと支援ができるよう、申請団体と相談しながら対応したい。

4 コーディネーターとの意見交換

(冒頭、コーディネーター大野氏より「まちづくり計画」事業構想についての話)

- ・ 本事業は、「歴史資料館の整備」「花峯橋の復原」等のハード整備を支える形で、市民活動等を促すようなソフト事業が基礎的な部分に置かれ、ハード事業をより優位に機能させる、という構成になっていると理解。
- ・ 5年間で完了を目指しているが、現下の経済状況と照らし合わせると、極めて困難な方向に向かいつつあるため、順序性を整理する必要があると考える。
- ・ 「地域の子どもたちに地域の歴史的な文化や価値を伝える」ことが寄附者の一番の意向であると考え、ハード整備としては「歴史資料館の整備」「花峯橋の復原」をマストとし、また、ハード整備のコンテンツを整理するうえでも、インバウンドではなく、子どもを含めた地域住民の効用を叶える方向へ向かうべきではないかと考えている。
- ・ この事業は油津の住民だけを向いて行うのではなく、市全体を見据えて対応すべきであり、それを確認する目的で、油津地区の住民に限定しない形でのアンケート調査を実施。
- ・ アンケート結果から浮き彫りになってきたものもあるため、皆さんと一緒に具体的な活動の方向付けを行っていききたい。

【主な意見・提言・質疑等】

（委員）経済状況等から5年間の総事業費が計画事業費に収まらない場合、いろいろな国の交付金などを活用し、補っていくのか。この事業は、5年間で終わる事業ではないと考える。

（大野氏）このような事案は、全国どこの自治体においても課題となっており、国の交付金だけに、この事業コストを依存していけばいいのかというと、決してそうではない。様々な手法を活用した、自主財源の確保も必要であると考える。

5年間だけという刹那的には捉えず、長期のビジョンで取組を進めたい。

（委員）計画事業費を超過する場合は、河野宗泰家や赤レンガ館、杉村本店など、あの一帯を民間が事業主体になって取組むような、別事業の検討も必要ではないかと考える。

（大野氏）他の自治体で「海辺のまちづくり」の取組を、民間活力を活用し進めた経験がある。その時の事例は、このまちに十分転用できるのではないかと考えているため、今後、皆さまと具体的なお話をさせていただきたい。

（委員）アンケート結果で「駐車場が少ない」という意見が多いが、どう考えるか。

（大野氏）油津を見て回る際、車からの視点はもちろん、あえて歩き、地域の現状を確認した。その中で見えた課題の一つとして、「駐車場への誘導看板がほとんどない」ことが分かった。実際にはいくつかの駐車場はあるものの、そこへたどり着けないことが、利用者の悩みではないかと考える。これから立体駐車場の稼働率も調査し、単純に駐車場を増やせばいいのかどうなのかも含めて、分析し、改善の在り方をお伝えしたい。

（委員）歴史資料館の整備に当たって、わくわくするイベントや魅力を取り入れるべきではないか。例えば、飫肥の四半的体验は観光客からの人気が高い。油津で昔行われていた「綱引き」など、体験型のコーナーを考えてみてはどうか。

（委員）油津の歴史を語るうえで、堀川運河、そして飫肥杉との関りは重要であると考える。

（大野氏）油津別館改修設計業者が計画している歴史資料館のコンセプトの中に、飫肥杉との関わり等はしっかりと盛り込まれている。市民の方が持っている昔の道具の展示など、期間ごとにテーマを決めて展示品を変え、頻繁に足を運んでもらうような仕掛けも構想の一つとして進められている。

5 その他

（特になし）

6 閉会（15時15分）